

キリストと一致した生活

PROCLAMATION

聖なる父よ、

わたしたちをぶどうの木の枝として一つに結び、
三位一体のいのちのうちに深く根ざして、
わたしたちがキリストとの一致のうちに
生きる恵みをお与えください。

日々 互いの重荷を担い合いながら、
あなたのゆるぎない愛を告げ知らせ、
あなたの平和の道具としてください。

すべての宣教者を祝福し、
彼らの労苦を支え、
希望のうちに御守りください。

宣教の元后聖マリア、
アジアのすべての人々が
主イエスに出会って 心を開き
救いの光を見いだすことができますよう
恵みのうちに 取り次いでください。

アーメン



2 「キリストにおいて一つ、宣教における一致」

Step 2: キリストと一致した生活です

イエスは御父にこう祈りました。「父よ、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、すべての人を一つにしてください。」（ヨハネ 17・21）。

キリスト者であるとは、実践や思想を第一に求められることはありません。それはキリストと一致した生活です。キリスト者であるとは、ぶどうの木枝として三位一体のいのちに浸されながら、キリストのうちにとどまることです。

そのため、教会の第一の宣教上の責務は、その成員の霊的一致と兄弟愛を新たにし、生き生きと保つことです。キリストが弟子たちにゆだねた福音宣教の使命は、何よりもまず和解し、交わりを望む心を必要とします。

レオ十四世 2026 年「世界宣教の日」メッセージより



全世界の福音宣教に思いをはせながら、
祈りの旅を続けましょう。
今週は **アジア** 大陸に生きる人々の
ために祈りましょう。

アジアは地球上で最も広く、最も人口の多い大陸です。この広大な地に生きる人々の精神性と文化から、ヒンドゥー教、仏教、儒教、神道など、多様な宗教や人生哲学が生まれました。この神秘に生きるアジアを思い起こし、アジアの人々がキリスト、すなわち神の力と知恵との出会いに心を開くことができるよう祈りましょう。

PROCLAMATION

キリストの希望を人々に伝える (宣教)



宣教師の証言

無原罪聖母宣教会の会員であった福者 マリオ・ボルザガ神父（1932-1960）は、ラオスでわずか3年間、宣教師として奉仕し、若いカテキスタのシオンと共に悲劇的な逃避行ののちに迎えた最期は、痛ましいものでした。しかしながら、その極東での短い日々は、慰めを必要とする人々と共に過ごした実り豊かなものでした。

黙想のために

マリオ神父は、ラオス南部のパクサネやキウカチャムの人々と共に過ごすことを愛していました。彼の著作や日記に記されているように、苦難の中にあっても、すべては神の恵みであると感じていました。

「祭壇から学びへ、十字架から喜びへ、私の一日は一つです（…）イエス様が恵みをもって私を求めてくださるので、私はイエス様に従うことに決して飽きることはありません。」

神の臨在の奇跡は実に偉大です。苦しみの中にも、喜びの中にも、感謝の時が必ずあるのです。

今日の福音から 黙想のヒント

年間第 28 主日 「婚宴」



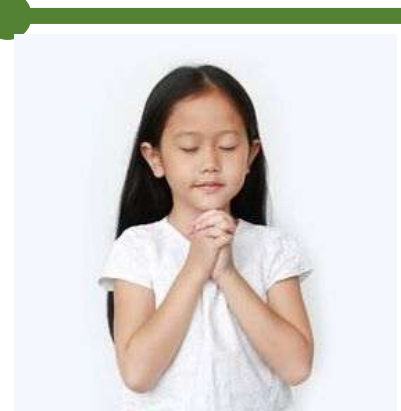
「…ある王が王子のために婚宴を催した。王が家来たちに言った。『…町の大通りに出て、見かけた者はだれでも婚宴に連れて来なさい。』（マタイ 22.1-14）

「だれでも」を招くことこそ、宣教者の心です。かつて自分もその「だれでも」の中で見いだされイエスの弟子へと導かれました。私たちが「だれでも」を招いて、輪を広げましょう。

ともに祈りましょう（共同祈願）

- ☆ みことばを通して日曜日の聖堂で宣言されるキリストの愛が、わたしたちの奉仕の働きを通して日々の生活の中で響きますように。
- ☆ 日本のカトリック教会が、イエスの愛を宣べ伝えるために信仰養成を大切にし、キリスト者が自分の信仰をだれにでも語ることができますように。

典礼と祈り



宣教のロザリオ

アジアのためにロザリオの一連を唱えましょう。